

2025年8月8日、MIZUBE キャラバン第3回目「いきものいてるかな？ SUP ボートで水都探検！」を開催しました！

身近な河川でいつもとは違う目線で水上を探検しながら、また昔のイメージでは汚いと思われていた大阪のど真ん中の川に生き物はあるのか？ということで、

専門家と一緒に設置した仕掛けの引き上げ体験をしてもらいました。今回も、一般社団法人日本シティサップ協会様と、株式会社海洋生態研究所様にご協力いただきました。

当日は天気も良く朝からとても暑かったですが、参加者の皆さん元気にお越しいただきました！



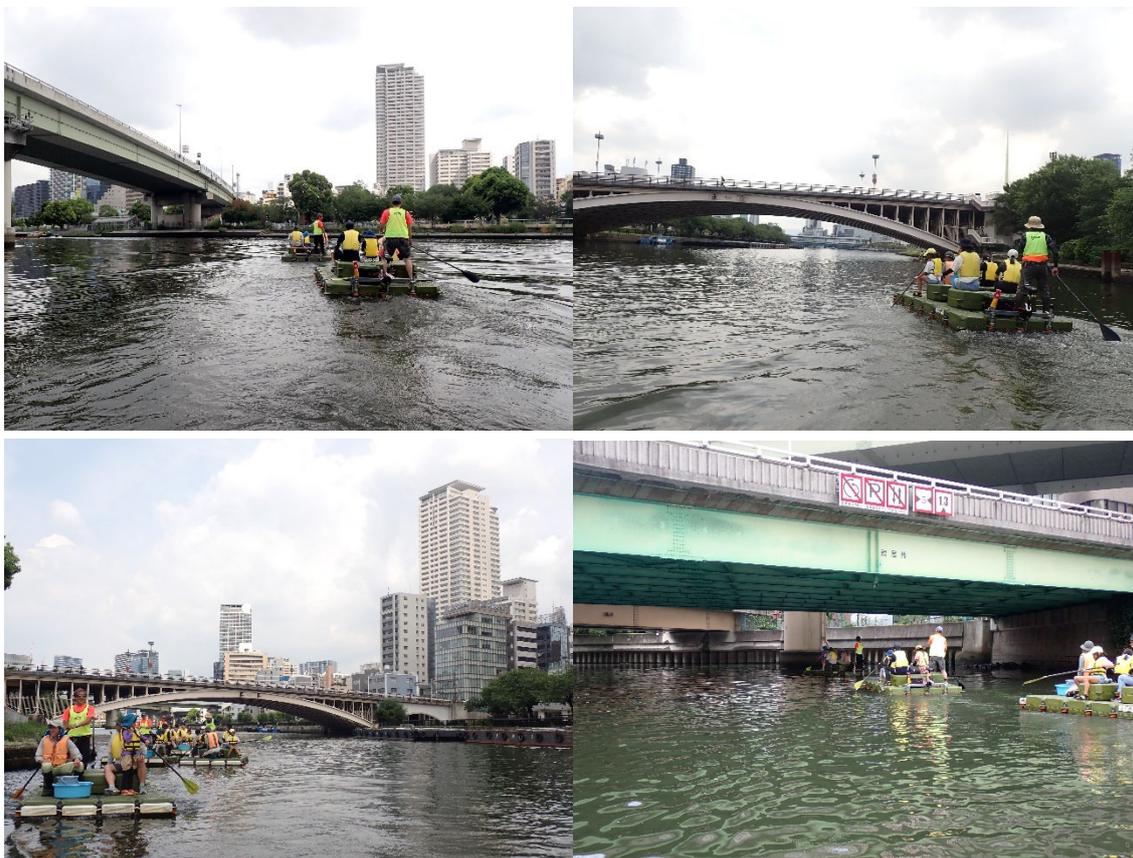
はじめにサップ協会代表の奥谷様より、大阪市の河川が載っている大きな地図を見せてもらいながら、今いる場所や道頓堀川の成り立ち、それぞれの川は何処から流れてきてどこでつながっているのかなどの説明をしていただきました。その後、パドルの持ち方を教わったり、操作の練習を行ってから SUP ボートに乗りこみました。



最初のポイントは巨大な壁…？

これは行き止まりではなく、東横堀川と大川を繋ぐ水門と呼ばれる設備です。都市河川である東横堀川には、防災のために大川の水流量を調節する水門が備わっています。洪水時などには、大川の水が大量に流れてくることを防いだり、一

方で海側にも同じような水門が備わっており高潮の際には逆に海の水が浸入しないように調節している重要な設備となっています。大都市である大阪が被災しないような機能がいくつも備えられています。



中之島付近を一周して、都市河川を遊覧。普段なにげなく道路から見下げる川も視点を変えてみると、様々なものが見えてきます。前日の雨により少し増水していた大川ですが、その流量が意外と多く、水流で思うように進みません。しかし、この SUP ポートはモーター付きなので、動力を追加して無事に急流場所を抜け、東横堀川に帰ってきました。



続いて、生きもの調査です。事前に仕掛けてあった網かごなどを引き上げ、都市

河川に生息している生きものの調査を行います。

ボート1艇につき、3つの罟を引き上げてもらいました。小型定置罟を引き上げると、中にはたくさんのテナガエビが！



少しわかりづらいですが、なぜか両手が無くなってしまったモクズガニが。網かごの中にはとれてしまったハサミは見つからなかったので、今回つかまえられたショックでとれたわけではないようです。このままではエサを食べられませんが、このモクズガニにいったい何があったのか…もしかすると、もっともっと大きな捕食者がいて、罟としてハサミを切り離したのかもしれない。



他にも、カワアナゴやクサガメといった生き物も見つかり、とても賑やかな生物相となりました。

プログラムの最後には、河内長野で見た生物たちと比べてみて、ここの生物たちが住む水はどんな水なのかを学習しました。

溶存酸素量や水温などを調べ、皆さんが思っているよりも、はるかにきれいな水が都市河川にも流れて、生きものたちが生息しているということを学習しました！



最後に、MIZUBE キャラバンのまとめを行い、友ヶ島～河内長野～SUP ポートまでで学習してきたことを振り返りました。また、9月23日に行われる関西万博で、MIZUBE キャラバンで学習して吉村知事に伝えたいことをみんなで考えました。それぞれたくさんの伝えたいことを発表してもらい、MIZUBE キャラバンのプログラムを終了しました。

皆さんが楽しんでいただきながら、少しでも身近な河川のことに興味を持っていただけるイベントになりました！ご協力いただきました、日本シティサップ協会様、(株)海洋生態研究所様、ありがとうございました！